

# 家族看護学

臨床場面と事例から考える

改訂第3版

編集 山崎あけみ 原 礼子

New,  
integrated,  
Creative,  
Evidence-based

南江堂



## トビックス

### 複数世帯共同生活

コレクティブハウスとは、北欧発祥の集合住宅の一形態である。各住戸はキッチン、バスなど生活に必要な設備が整い、プライバシーに配慮された独立性の高いものとなっており、その他に、大きなキッチンやリビングスペース、洗濯室などの共有スペースが備わった建物で、居住者が「しくみ」をもって協力しながら運営することが大きな特徴である。

日本では、NPOが居住者組合や事業主を支援し、赤ちゃんからお年寄り、ファミリーから単身まで、世代も世帯構成も属性もさまざまな、多様な人たちが暮らすコレクティブハウスが推進されている。

居住者は、全員参加の居住者組合を作り、毎年自分たちで暮らし運営にかかわる予算を策定して組合費を徴収し、建物などの自主管理と暮らしの自主運営をしている。月に一度、居住者組合の定例会があり、さまざまなことを話し合いで進めている。暮らしの共同部分が円滑に回るようマネジメントするグループを決めて分担するが、実権を握るリーダーのような人はおらず、居住者はみなフラットな関係である。

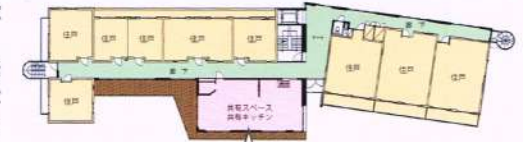
建物の掃除や庭や菜園の世話など、さまざまなことを自分たちで話し合って協働し、共同の暮らしを豊かなものにしていく。なかでもコモンミールは象徴的なものだ。共有キッチンで、月の半分ほど、居住者がもち回りで調理を担当し、希望者分の食事を作る。

暮らしを通じた緩やかなつながりの中で、「赤ちゃんを抱いての買い物に、お隣の小学生が荷物もちでつき合ってくれた」という話や、「シニアの方が赤ちゃんの面倒を見てくれるのでとても助かる」という話など、「家族だけではないつながりで助け合えるのがある」という実感は、子育てに家族に共通するものようだ。もちろん、子育ての話に限らず、「人と触れ合う時間があるので、外で嫌なことがあっても気分の切り替えができる」と喜ぶ単身女性や、高齢の方からは「若い人と話したり、一緒に何かやったりする生活には張りがある」という声も聞かれる。

多様な人たちが集う多世代の暮らしであり、ベッタリとした仲良しグループとは違う。何事も話し合うのが基本である暮らしについて、ある居住者は「手間はかかるが、それによって信頼関係が生まれていくのを感じる」と語る。お互いの違いを受け止めながらいねいに話し合うことで、自分のことも相手のことも、1人ひとりを大切に作るフラットな関係のコミュニティが形成されている。

#### 引用文献

- i) コレクティブハウジング社ホームページ, [https://chc.or.jp/index.html] (最終確認: 2022年1月14日)
- ii) コレクティブハウジング社 YouTube チャンネル, [https://www.youtube.com/channel/UCZIN7KGewLYrZRQYVvMkTyOQ] (最終確認: 2022年1月14日)



コレクティブハウス聖蹟の平面図とコモンミールの様子